

災害から大切な命を守るために・・・

いつ起こるか分からない災害から、大切な命を守るために、日頃、ご自宅や勤め先の地域の状況を踏まえ、起こり得る災害と、今できることを考え、災害に備えましょう！

気象情報(災害含む)は、普段はテレビ・ラジオ・新聞などで手軽に入手できる重要な情報です。最近では、携帯電話やスマートフォンも普及し、より手軽に情報を入手できるようになりました。ご家庭や勤め先などで、どのような方法で各種情報を入手できるか、今一度確認してみましょう！
また、日頃、ご自宅や勤め先の地域の状況を防災マップなどで予め把握し、災害に備えましょう！

市からの避難情報は、エリアメール、防災行政無線、滝沢NAVI、モバイルメール、市ホームページ、ラジオ・テレビ、消防団車両・広報車等によりお知らせします。

市では、「気象台が発表する防災気象情報」(右表参照)を参考に、災害の発生が差し迫り、避難が必要になった場合は、「市からの避難情報」(右表参照)を発表します。



【市からの避難情報】

警戒レベル	新たな避難情報	住民がとるべき行動
3	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難
4	避難指示	危険な場所から全員避難
<警戒レベル4までに必ず避難！>		
5	緊急安全確保	命の危険 直ちに安全確保！

【気象台が発表する防災気象情報】

気象情報	(1)予告的な情報 ①特別警報・警報・注意報に先立ち、24時間から2～3日先に予想される現象について注意を喚起する場合 ②少雨、長雨、低温、日照不足等が長時間持続し、社会的に大きな影響が予想される場合 (2)特別警報・警報・注意報を補完する気象情報
注意報	大雨、洪水、強風、風雪、大雪、波浪、高潮、雷、融雪、濃霧、乾燥、なだれ、低温、霜、着氷、着雪(大雨や強風等によって災害が起こるおそれがあるとき)
警報	大雨、洪水、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮(重大な災害が起こるおそれのあるとき)
特別警報	大雨、暴風、暴風雪、大雪、波浪、高潮(重大な災害が起こるおそれが著しく大きいとき)

防災行政無線を聞き逃した！聞こえにくかった！を解消するため、次のサービスを提供しています。特に滝沢NAVI、いわてモバイルメールは、一度ダウンロード又は登録していただくと、随時、情報がお手元に届く、大変便利なものとなっております。ぜひご登録ください！

Google Play
で手に入れよう

Apple Store
からダウンロード

・いわてモバイルメール 「滝沢市からのお知らせ」
検索「いわてモバイルメール」又はQRコード読取→画面に従って進んでください。

・電話応答サービス 電話 019-684-4192
・滝沢市ホームページ 検索 滝沢市

【大雨による対応例】



※土砂災害警戒情報：気象庁と都道府県が共同で発表する情報で、市町村の出す避難情報発令の目安となるものです。
 ※防災行政無線との連動：土砂災害警戒情報や特別警報等の情報が発表された場合、自動で防災行政無線から警戒放送が流れます。
 イラストは気象庁様よりご提供いただいたものです。

主な災害の種類と備え

【1. 大雨による主な災害は・・・】

土砂災害	山崩れがけ崩れ	地中にしみ込んだ水分が地面の中を緩くして、山の斜面や急ながけが突然崩れ落ちる。大雨や雪解けが原因となることが多いが、地震や火山の噴火に伴い発生することもある。
	土石流	山腹、川底の石や土砂が、長く続く雨や集中豪雨等によって一気に下流へと押し流される。上流での大雨により、下流の地域が土石流に襲われる場合もある。
	地すべり	斜面の一部あるいは全部が、大雨や地下水などの影響によって、ゆっくりと低い方へ移動する。
洪水害 (外水氾濫)		大雨や雪解けを原因として、河川の水の量が異常に増えることにより、堤防の破壊や橋梁の流出が発生する。上流域の大雨による川の増水や氾濫にも注意が必要。
浸水害 (内水氾濫)		地域内の多量の大雨により排水が追いつかず、用水路や側溝等が溢れて道路が水で覆われたり、住宅地などが浸水する。



雨や風の強さを表す気象用語
地域名称は、滝沢市<盛岡地域>内陸です。

ワンポイント

あめ(雨)
「やや強い雨」10mm/h～ザーザーと降る。
「強い雨」20mm/h～どしゃ降り。
「激しい雨」30mm/h～バケツをひっくり返したように降る。
「非常に激しい雨」50mm/h～滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)。
「猛烈な雨」80mm/h～息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる。

かぜ(風)
「やや強い風」10m/s～風に向かって歩きにくい。傘がさせない。
「強い風」15m/s～風に向かって歩けない。
「非常に強い風」20m/s～つかまっていられない。飛来物有り。屋外の行動は極めて危険。
「猛烈な風」30m/s～屋外の行動は極めて危険。

【2. 噴火予報・警報・噴火警戒レベル】

種別	名称	対象範囲	レベル(キーワード)	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者への対応
予報	噴火予報	火口内等	1 活火山であることに留意	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出などが見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)	通常の生活	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)
警報	噴火警報(火口周辺)	火口周辺	2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、或いは発生すると予測される。	通常の生活	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)
	又は火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、或いは発生すると予測される。	通常の生活(今後の火山活動の推移に注意。入山規制)状況に応じて要配慮者の避難準備等	登山禁止・入山禁止等危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域及びそれより火口側	4 避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予測される。(可能性が高まってきている)	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)	登山禁止・入山禁止等危険な地域への立入規制等(状況に応じて規制範囲を判断)
	又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、或いは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法等を判断)	

●もし噴火が起きたら・・・(噴火による現象)

噴石
火口から噴き上げられた高温の岩片は、火口の周辺に落下します。噴石に当たると、生物は死傷し、建物は破壊され、また、山林の火災にも発展しかねません。

火山灰などの降下
火口から噴き上げられた火山灰・スコリア(黒い軽石のようなもの)は上空の風によって運ばれてきます。大規模な噴火で上空が噴煙に覆われると、屋間でも夕暮れのように暗くなります。火山灰を吸い込むと人間の健康にも影響を及ぼします。火山灰が降り積もった地域では、スリップによる事故が多発したり、農作物への影響など広範囲に被害が発生します。また多量に火山灰が堆積すると、その重みで建物が倒壊する恐れがあります。雨が降ると水を吸って、さらに重くなります。

土石流
土石流は火山灰が降り積もったところで、降雨により発生します。火山灰がたかくさん堆積した箇所の下流で発生する危険性があります。特に沢沿いや低い場所は危険です。

溶岩流
溶岩流が到達すると田畑・家屋などの財産は、焼かれ、また厚い岩石の下に埋没されてしまいます。

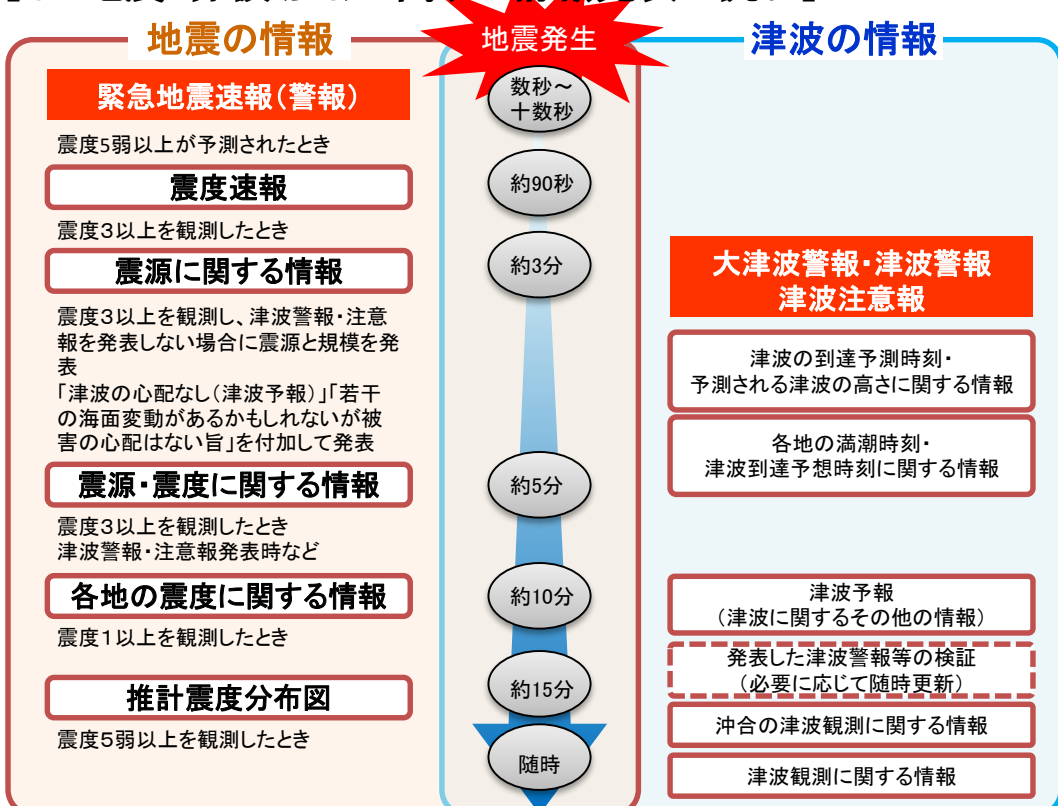
火砕サージ(爆風)
火砕サージは土砂混じりの爆風で、小高い丘の上にもはいていきます。高速で流走し、樹木や家屋をなぎ倒す危険な現象です。

火砕流
火砕流は高温の噴出物が沢沿いなどを高速で流れ下る現象です。低地で沢が浅くなると広い範囲に広がることもあり、高温で破壊力が大きいので、全ての建物、動植物に破滅的な被害を与えるきわめて危険な現象です。

岩屑なだれ(山くずれ)
噴火や地震が引き金となって、山体が大規模に崩壊して発生する現象です。発生の可能性が低いので、火山防災マップには過去の事例を掲載しています。

融雪による火山泥流
積雪時に火砕流が発生すると雪が融けて、火山泥流が発生することがあります。火山泥流は流下途中の雪や土砂を取り込み、下流側に広範囲に氾濫します。

【3. 地震・津波(参考)に関する情報発表の流れ】



ちやぐぼんからのお願い
災害から身を守るために・・・

ご自宅や勤め先の地域の災害リスクを知ることが大変重要です。防災マップの確認、想定される周辺の危険箇所を確認し、各地域の自主防災組織と連携しながら、地域に発生するかもしれない災害を知る(確認)することが重要です。互いに災害の知識を高めつつ、災害が発生しそうなとき、或いは災害時には、最新の気象情報と、市や気象台が発表する各種防災情報を合わせ、状況に応じた最善の行動、命を守るための行動をとりましょう。